公民館報
ちくま
No. 99
2024.8.1
長野県千曲市

市民講座を開催しました

6月30日（日）、信州の幸（めぐみ）あんずホールにおいて、NHKでおなじみの気象予報士 平井信行（ひらいのぶゆき）さんを講師にお迎えし「気象・防災情報の見方と使い方～気象災害から命を守るために～」と題して、市民講座を開催しました。367人の参加がありました。

特集 平和への思い

《主な掲載記事》

各館の活動報告 …… 2～3
特集　平和への思い …… 4～7
もっと知りたいふるさと …… 8
（戸倉地区）

＜お知らせ＞
短詩型文学祭の作品募集
成人式のお知らせ
文化祭のお知らせ

各館の活動報告

屋代公民館
白樺リゾートウオーキング講座に参加して
倉科　髙木　俊雄

6月21日（金）、ゆうゆう学級の市外研修に参加しました。松本大学大学院健康科学研究科の根本健一先生から、「健康寿命を伸ばすには体力の維持増加が大切」「メッツ（METs）という身体活動の強度を意識した運動が必要」との内容の座学を受講後、室内でできる筋トレの体験をしました。

体の部位の重さを利用した、腕・背中・ふくらはぎ・太ももの筋肉をトレーニングする方法について、ユーモア溢れる先生とサポートする学生の皆さんからみっちりと指導を受け、参加者一同体力を振り絞りました。器具を使わなくても日常的に自宅で十分に筋トレできることを体験し、とても有意義な時間を過ごしました。

よい汗をかいた後は、運動量にあった栄養が管理計算されたランチを美味しくいただきました。

雨に降られましたが、窓越しに白樺湖を眺めることができる屋内での開催なので心配はいりませんでした。フレイル（身体・認知機能の低下）予防のための充実した1日を過ごすことができました。

根本先生の厳しくも温かいご指導を受けています

腕の重さを利用して筋トレをしています

稲荷山公民館
連覇達成!!
荒町　松崎　達也

令和元年以降、新型コロナの影響により開催が見送られていた分館対抗球技大会が6月16日（日）、ことぶきアリーナにて行われました。

今大会は、男女混合ソフトバレーボール大会ということで今までとは一味違った試合展開に悪戦苦闘。しかし、荒町はチームワークの良さを発揮し予選通過。準決勝は対上八日町。1セット先取される利！そして、ついに決勝。若さと勢いのある中町との対戦になりました。高さ、そしてパワーも兼ね備えた相手に1セット先取され、準決勝に続きまたしても崖っぷちに立たされ、チームは満身創痍。控えのメンバーの応援にも熱が入り、それに応えるコート上の選手たち。まさにチーム一丸となり全力を尽くした結果、見事に逆転勝利を収め連覇達成をすることができました。

選手及び応援してくださった皆様、ならびに分館役員の皆様お疲れさまでした。

手に汗握る準決勝

優勝　荒町分館
準優勝　中町分館
3位　上八日町分館
小坂分館

優勝した荒町分館のみなさん

八幡公民館
新たな発見！

5月30日（木）、市内研修で森将軍塚古墳館、森将軍塚古墳、あんずの里アグリパークを訪問しました。

いいお天気！古墳の頂上にてパチリ

この研修は、意外と知らない千曲市のことをもっと知るための講座として開催しています。

森将軍塚古墳館では、館長さんによる館内の案内と説明により、古墳時代の住民の生活を知ることができました。

その後、バスにて森将軍塚古墳まで上り、長野県最大規模の全長約100㍍の前方後円墳を見学しました。

当日は晴天で、北アルプスが眺望できました。この場所は、夕日の景観が美しいことから、長野県のサンセットポイントにも選ばれています。

アグリパークでは、職員の方に指導していただきながら、花の寄せ植え体験をし、楽しい時間を過ごしました。

今回の市内研修で、普段は「行かない場所」「知らない場所」を訪問して、新しい発見があったと思います。

花の寄せ植え体験（アグリパーク）

埴生公民館
選手宣誓
杭瀬下　市川　弘一

「宣誓、我々選手一同は埴生地区球技大会において、老いも若きも男も女も、地域住民とふれあいながら、だけど勝ち負けには非常にこだわり、正々堂々と戦うことを誓います！」

5月19日（日）、埴生地区球技大会が開催されました。埴生地区は8つの分館があり、野球は勝っても負けても2つずつ試合ができるので心地よい疲労感が味わえます。

小中学校では同じチームだった人も、この大会では地区ごとに分かれ、昨日の味方は今日の敵、競争心も芽生えます。応援する人も自分の地域の選手の頑張りに力が入ります。また、他地域から引っ越してきた方もとても良い雰囲気で協力してくれます。試合中はピリピリしていても終わった後はとても清々しい気持ちになります。

地域の触れ合いが薄くなってきた昨今、この公民館行事である球技大会を通じて地域の輪を広げ、絆を深めて行けたら良いなと、その願いを込めて選手宣誓をいたしました。

元気な選手宣誓でスタート！

ねらいを定めて目指せホールインワン！

○野球Aブロック
優勝　鋳物師屋分館
準優勝　打沢分館
○野球Bブロック
優勝　小島分館
準優勝　杭瀬下分館
○マレットゴルフ
優勝　杭瀬下分館
準優勝　鋳物師屋分館
3位　新田分館

戸倉公民館
「親子deお味噌をつくろう！」に参加して
戸倉　平塚　美香

実は私、かつて味噌屋に勤めていました。手作業のところもありましたが、ほとんどが機械作業。販売や袋詰めを担当していたので、どこかで機会があれば子どもと一緒に体験に行きたいと思っていたところ、5月26日（日）ようやく実現しました。

普段からよく食べているのに作り方（茹でた大豆をすり潰し、麹や塩を混ぜ合わせ、味噌玉を作る工程）や材料を意外と知らないことに気づかされました。当日、子どもは粘土遊びの感覚でペタペタと半分は遊びのように楽しんで、和気あいあいとした味噌作りでした。大豆を潰す作業が特に大変で、ビニール袋に穴をあけてしまい、わちゃわちゃしていたら、「まめの会」の方々にサポートしていただきました。この作業がとても大切で、ものすごい体力を消耗しました。一生懸命作った味噌なので、絶対に美味しいと思います。味噌作りを体験しながら子どもの成長している姿を見ることができました。〝早く食べたい〟とはやる気持ちを抑え、数カ月待ちたいと思います。

作業の前に先生の説明を聞きました

ゆでた豆をつぶす準備をしています

上山田公民館
5年ぶりの開催
八坂　高野　浩一

6月9日（日）、第45回支分館親善ソフトボール大会が実施されました。

去年は雨で中止となってしまい5年ぶりの開催です。5年前、私も選手として参加させていただきましたがその大会では優勝をすることができました。しかしながら大分年月が経ってしまっているので身体が思ったように動くのかとても心配でした。

八坂分館は初戦、準決勝と勝ち上がり決勝戦では三本木分館との激戦でサヨナラ勝ちという形で制し見事二連覇を達成できました。

久しぶりに他の支分館の方々とも楽しく交流ができたと思います。また、自分の娘、息子の同級生なども参加していてとても感慨深いものがありました。

また来年も元気に変わりなくお会いしましょう。

各支分館、選手、役員のみなさん大変お疲れ様でした。楽しい時間をありがとうございました。

熱戦を繰り広げています

開会式に集まったみなさんです

特集　平和への思い

「公民館報ちくま」では、平成22年から毎年8月に『語り継ぎたい わたしの戦争体験』の特集を組み、従軍の経験や当時の生活の様子など、数々の貴重な原稿をお寄せいただき、掲載してきました。

戦争の体験を直接語れる方が少なくなっている中、戦争を知らない世代からの願いも含めて、様々な世代で「平和への思い」を共有して、次の時代に語り継いでいただければ幸いです。

戦争に行った二人の先生

内川　南澤　公子

私は今春卒寿を迎えました。丈夫でここまで来られたことに感謝です。小学校2年の時戦争がはじまり6年の時に終わりました。戦争だから食べ物がなく遊ぶこともできないんだと思ったことはありません。戦争ってどこでどんなことをやっているんだろう程度の関心でしたから。

家は農家で田畑が沢山あり姉妹は小さい時から畑へ行くのは当たり前、桑畑に豆を蒔いたり桑束を背負子で運ぶのが仕事でした。父親は数年病んで体を動かすことができません。父に代わって祖父が家族を支えてきました。子どもは遊ぶことよりも家の仕事を手伝わねばという気持ちが身についていました。

小学校2年になった時、長野師範学校を卒業した若い先生がきました。当時師範学校を出た先生は僅かで1校に2、3人いるかどうかでした。村の人たちからも期待され、私たちも何かいいことがあるような思いでした。

岩間睦男先生といって伊那の方の出身でした。学校周辺には下宿がなく、歩いて10分程の瓦屋さんの2階に居を据えました。背が高く黒縁の眼鏡をかけ、走るのが速いんです。休み時間になると、中庭に出てドッヂボールを教えてくれました。面白くて面白くて皆必死でした。先生は力があって強い球を投げるんです。当たらないように逃げたり、よし今度は捕ってみるか！と元気を出す人が出てきました。組中が飛びついて遊ぶことを覚えました。

先生はカメラも持っていました。「おーい、明日は日曜だから学校へ遊びに来られる者は来いよ。写真撮ってやるからな」と。8時半ということでしたが、神科村は学校を真中にして一里級（遠く離れている意味）の集落が大部分で上小地方では一番大きな村でした。結局集まったのは私の集落の3人だけでした。学校に一番近いからです。「土手の桜の木の下がいいかな？」と道側の堤防を一回りし、太い幹に先生が真中にしゃがみ3人が寄り集まった格好でした。写真機等を持っている人はいないので撮ってもらえる嬉しさにわくわくでした。写真を撮ってもらうと広い校庭を4人で走り回りました。記念写真以外の日常写真なんて1枚もない私は大事大事にして時々見ていました。それが一体どこへいってしまったのでしょう？紛失？どこかの記事に載せてしまったのでしょうか？

小学生のころの私（後ろから２列目右端）
近所の友達と

3年生になった時、組替えがありました。男組、女組、男女組にと。私は女組になり岩間先生は男女組の担任になりました。先生は5年生になって少し経つと召集されました。ニューギニアへ行ったというのです。「戦地へ行った！」と隣の組の人たちがわめいていました。「慰問文を書きたい人は持って来なさい」と、男組担任からの伝言がありました。私は校舎の板壁の下に座り込んで書きました。「本当に戦地へ行ったのかな？」「戦地ってどんな所だろう？」現代のように詳しい報道はないので幼い想像の世界でした。

岩間先生がニューギニアで戦死したと知ったのは昭和19年内でした。長野師範を出て意気に燃えた門出が僅か4年足らずで終わってしまったのです。私は唯辛い気持ちで過ごしました。小学生時代は光も輝きもどこにもなかったように思います。

短詩型文学祭の作品募集

千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第29回更埴地区短詩型文学祭を開催します。
応募要領と応募用紙は最寄りの公民館に用意してあります。
入賞者には、表彰状と記念品を贈呈します。奮ってご投稿ください。

【募集期間】７月１日（月）～８月31日（土）
【募集部門】短歌・俳句・川柳・現代詩
【投稿料】応募用紙１枚につき500円（小学生の部・中高校生の部は無料）
【投稿先】各公民館

もう1人は中学3年の時担任になった先生です。復員兵士でした。どこで戦ったかは聞いていません。日本人は皆貧しく、一日一日を暮らしていくのがやっとだった戦後3年目でした。

井出哲先生。大正10年生まれ。私と同じ神科村の出身です。東大の経済学部を出て、八幡製鉄に勤めたけれど召集令状がきてしまったというエリートでした。復員して生家に戻ったが職はない。先生でもやるか！果たして教職の免許はもっていたのでしょうか？中3の時は社会と英語を教わりました。中高一貫制でしたので、高校では一般社会だけでした。彼は私たちが高3になる時にわずか3年間で教職を去り上京しました。

井出先生は図書館の係になり国語科の先生と毎日図書整理をしていました。生徒にも手伝ってほしいと言われ放課後何人かが図書館通いをしました。

「マルクス、エンゲルスは先ず読め！」とわからなくとも皆目を通しましたね。当時の中高生は大部分の人がこの本に興味を持ちました。彼が一番勧めたのは『きけわだつみのこえ』でした。「これはな、つい最近入ったばかりなんだよ」と言って「自分と同じ年頃の人間が学徒出陣していったんだ」と熱を込めるんです。皆に知ってもらいたい、あるいは訴えたいという気持ちだったのでしょうか。私はこの時初めて本の名前を知りました。それからカントやヘーゲルの哲学も教えてくれました。戦中発禁だった人生論ノート等はどんどん出版され、図書館にも入ってきました。代表作が三木清の『人生論ノート』でした。彼が発する「悪貨は良貨を駆逐する」という経済の話も総て耳新しいものでした。驟雨の如く押し寄せる未知の世界。先生から話を聴くという名目で同窓会館の小室を借り「共に語る会」を設立したのもこの時でした。

この頃になって私は初めて「戦争」を実感するようになりました。広島や長崎・沖縄のような痛手はないものの戦後のやつれきった国の様をいやというほど味わいました。「家は焼けない、命は残っている、国家のありようは全滅でも何とかなる！」若い人が一人一人勉強して、国の力を引き上げるしかないと。戦中学べなかった学徒が干からびた喉を潤すように我先にと私たちは色々な本を読み漁ったのです。

担任の先生が戦争に行ったということ、復員兵士であったことは生徒を刺激し、生徒の人生を揺さぶり続けてきました。先生のあの無雑作な仕草、愛あふれる面差は私の脳裏に染み入って、戦争へのレジスタンスを共有しながら今日まで歩くことができました。

《2人の師に合掌》

太平洋戦争 ～屋代町に於ける最後の出征兵士～

瀬下　久美

会誌『やしろ』第3号（平成8年、「屋代を語る会」発行）からご遺族の許可を得て、多少加筆・修正し転載しました。

昭和20年8月13日、長野空襲を目の当たりにして、戦局は本土決戦の感が一段と濃くなってきました。8月15日、天皇陛下の特別なるお詞があるということは聞いていましたが、「お盆だが涼しいうちに壮行式を行ってしまいたい」という通知が出て、屋代の氏神様の須々岐水神社前にて、午前9時より各種団体、関係者が集まって式が行われました。これが今大戦の最後の壮行式になろうとは思いませんでした。この時の出征兵士は春日喜平氏、石川正雄氏、瀬下久美の3名でした。

当日、町長さん、在郷軍人分会長さんより「元気で頑張れ」というお詞をいただき、また神社からお神酒をいただきました。

その後、兵士夫々より、春日さんは「妻子を残して戦場へ行くがよろしく頼む、そして頑張る」という悲壮な挨拶。石川・瀬下両名も「戦場に行くが、皆々様のご恩に報いるよう頑張る」と挨拶をし、各位の武運長久の万歳をし、青年学校の生徒の楽隊に送られ「勝ってくるぞと勇ましく誓って国を出たからにゃ」と出発しました。

春日喜平氏、石川正雄氏はそのまま屋代駅まで楽隊先頭で、各種団体、各関係者に送られて、午前10時、11時の汽車で金沢、宇都宮の各聯隊へと出発していきました。私は、午後の汽車にて三重に行くことになっていましたので、一旦自宅に帰り、当日家で陛下の玉音を聞きましたが、行かぬわけにはいかないだろうと、午後2時の汽車に乗るべく、屋代駅まで関係者に送られ、乗車切符を購入しホームに出て、皆に万歳をしてもらい汽車の来るのを待っていたところへ、屋代町役場兵事係の中山さんがすっ飛んできて、待てをかけられ兵役解除になりました。

何だかわからないまま家に帰りまして、重要書類は全部焼いてしまえ、との命令でしたので焼き捨てました。その時の気持ちは頭の中が真っ白。ただぼうーとしていて、負けてくやしい、ということが先だったことを覚えています。戦争に負けた、これからどうなるのか、と思うとへんなものでした。

後で聞きますと、春日氏と石川氏も衛門まで行っただけで兵役解除となり帰宅したそうです。

なお、出征に当たり携行せよ、との命令書の内訳は次のようなもので、全部奉公袋の中に入っていました。収容品として、

軍隊手帳、勲章、記章、適任証書、軍隊に於ける特業教育証書、召集令状、貯金通帳、勅諭集、軍歌集、印、従軍記章、遺髪、遺爪、体力手帳、体力検定証、血液型鑑定証、武道有段証、教練検定合格証、幹部候補生合格証書、園芸化学終了証など、大切で重要なものでした。それらをすべて焼却しました。軍刀は別途保管しました。

戦争を再び繰り返さないことを祈って終わります。

屋代町による戦没者町葬

屋代公民館主事　神尾　弘晃

この４月から屋代公民館に着任し、勤務しています。公民館所蔵の古い写真を見ていると、その中に私の大伯父である直久（なおひさ）（祖母あひ子（令和３年没）の兄）の戦没の際の「町葬」の写真がありました。

モノクロ写真の裏には「昭和14年12月８日　故陸軍歩兵伍長　中山功氏　故陸軍歩兵伍長　神尾直久氏」と書いてあり、式次第も残っていたため、２名の合同葬儀だったことがわかります。屋代小学校校庭に設置された祭壇には、お骨箱らしきものが２つ並んでいます。多くの旭日旗や花輪、幟旗を立て、極めて厳粛で盛大なものであったことが伺えます。

町葬の全景　昭和14（1939）年

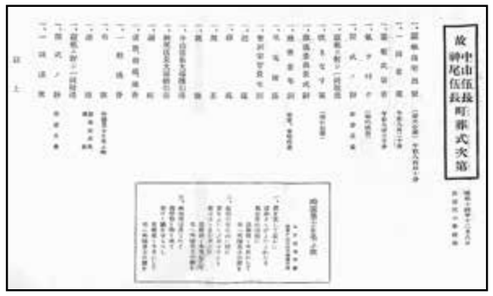
参列者に目を向けると、制帽をかぶった軍人。ゲートル巻きの旧制屋代中の生徒。中学生より頭一つ小さい高等小学校の児童。白い割烹着を掛け小さな子どもを連れている愛国婦人会、国防婦人会、主婦会といった多くの女性たち。「森」「倉科」といった法被を着た近隣の村の警防団などの姿を見ることができます。

町葬後の家族写真
前列右から２番目が祖母
（当時喪服がなかったらしい）

町葬についての資料はあまり多くないようですが、昭和48年発行の『屋代百年のあゆみ』（屋代学校開校百周年記念事業実行委員会発行）に次のとおり記述がありました。

盛大に見送り、元気で帰ってくるようにと願っていたのに、不幸にも戦死して遺骨となって帰ってきた人や、大けがをしてしまった人もたくさんいました。

遺骨が返ってくる日は英霊の出迎えといって、町の家々は旗竿の玉を黒い布で包んで、日の丸の旗を竿の一番上から少し下にしばった弔旗をかかげて悲しみを表しました。小学生は教室に用意していた喪章をつけ、屋代駅前まで出かけ道の両側にならんでお迎えしました。この人たちのお葬式は、町葬といって、町の主催で屋代小学校の庭でやりました。町葬の日は、小学校の正門前通りの入口に杉の葉で門を作り、グラウンドの西側に祭壇を飾り、小学生は講堂側でいすに腰掛けて、長いお葬式に参列しました。



故　中山伍長　神尾伍長　町葬式次第

一　開式ノ辞
一　国歌斉唱
一　黙祷
一　開式ノ辞
一　弔辞
一　弔電
一　閉式ノ辞

町葬の式次第

しかし、戦争がますます激しくなってくると、戦死者の数も増え、町葬をする余裕もなくなってしまいました。

「戦争に従事して命を落とせば英霊になる」「戦死は家門の名誉である」そのような時世のため、町を挙げての葬儀は住民の戦意を高める意図があったと思われます。

戦争に反対するものは「非国民」と呼ばれ、言論の取り締まりや住民の相互監視が強化された時代。そんな時代に戻ることのないよう、歴史の真実を知り、学び続けることの必要性を強く感じる今日このごろです。

最後に、大伯父の大きな墓石に刻まれている戦没の過程を紹介させていただき、この文章を閉じたいと思います。

☆陸軍歩兵伍長勲八等
神尾直久之墓
忠誠院直堂義久居士
大正七年二月二日生　姿性温厚誠実ニシテ孝心極メテ深シ　昭和十三年一月十日現役兵トシテ歩兵第五十聯隊ニ入隊　爾来支那事変ニ従軍　北支各地ニ転戦赫々タル武勲ヲ奏ス　然ルニ惜哉同十四年八月二十三日河南省沁陽縣懐慶第十四師団第一野戦病院ニ於テ戦病死ス　行年二十二
陸軍少将小田健作敬書

令和6年度　千曲市成人式 のお知らせ

日　時　令和７年１月12日（日）　受付　13:00～　式典　13:30～

会　場　上山田文化会館

成人式対象者　平成16年４月２日から平成17年４月１日の間に生まれた市内に住所がある人と、市内の小学校または中学校に在籍した人です。
＊対象者には11月中旬に案内状をお送りします。

問い合わせ先　埴生公民館（成人式当番館）TEL 026-272-0055
または、最寄りの公民館まで。

平和について思うこと

戸倉上山田中学校２年　中村　麻誉（まよ）

皆さんは、平和とは何だと思いますか。私は、自分や他の人がやりたいと思うことを、お互いに尊重しながら、自由にできることだと思います。

なぜそう考えるかというと、２つの理由があります。１つ目は、お互いが相手のことを尊重しないでやりたいと思うことを行うと、戦争に繋がってしまう可能性があると考えるからです。２つ目は、自分のやりたいことができることで、嬉しさや楽しさが生まれ、その気持ちが思いやりをもつ心に繋がると考えるからです。

きょうだい４人で　一番右が私です
（祖父のりんご園にて）

小学校の時、どのように第二次世界大戦が広がっていったかを勉強しました。そのときに、日本の一部の軍人や政治家などが、中国に日本の勢力を伸ばすことで景気が回復していくという考えから、日本軍が中国軍を攻撃し、満州事変になったと学びました。満州事変から戦争が各地に広がっていき、第二次世界大戦でたくさんの人の命が失われたということを知りました。

また、私は、夏休みの課題のため、曾祖母の子どもの頃のことを取材しました。曾祖母の少女時代は戦争が激しい頃で、学校の授業は勉強ではなく、サツマイモやジャガイモを作って疎開してきた子どもたちにあげていたそうです。私はこの話を聞いて、疎開してきた子どもたちは、住む場所を追われていて辛い思いをしていたことを知りました。

さらに、昨年の夏休みに、広島の原爆ドームと平和記念資料館を訪れました。原爆ドームは、原爆が投下される前までは人で賑わっていて、とてもきれいな建物だったと知りました。しかし、投下後は、骨組みの鉄と瓦礫（がれき）だけになり、影だけを残して一瞬で命を奪われた人もいました。また、平和記念資料館に展示してある資料や遺品を見て、私は、美しいものが失われて熱で曲がった鉄と瓦礫、傷ついた人々だけになってしまうのだと知りました。日本も他の国もお互いを尊重しないで、自分たちのやりたいことだけを突き進めていってしまったために戦争に繋がってしまいました。そして最後は広島と長崎に原爆が投下されてたくさんの物や命が失われ、生き残った人々にも大きな傷ができてしまいました。

戦争は昔の話だから、現在の日本には関係ないと考える人がいるかもしれません。けれども、世界に目を向けると、戦争や紛争のために食事が満足にできない、住む場所がないといった人が大勢います。戦争をしていない日本にとっても他人事ではありません。

私は、平和とはつまり、お互いを思いやりながら、幸せを求めていくことだと思います。平和な世の中にするためには、自分も他の人も幸せになれるように、一人一人が思いやりを持ち続けることが大切です。私自身も、自分も他の人も幸せになれるように思いやりを持ち続けていきたいと思います。

第31回 戸倉文化祭　会場 戸倉創造館

《開催日程》

- 作品展示の部　11月16日(土)　11:00～16:00
  11月17日(日)　9:00～15:00
- 舞台芸能の部　11月17日(日)　9:30～15:00

問合せ先　戸倉創造館　☎026－275－6700

更埴地区文化祭 中止のお知らせ

例年11月に開催している更埴地区文化祭は、会場である更埴文化会館が改修工事のため、今年度は中止とさせていただきます。

発表・作品展示を希望される皆様には大変申し訳ありません。ご理解いただきますようお願いします。

第53回 上山田文化祭

会　場：上山田文化会館 ほか

11月3日(日)
- 展示発表　9:00～17:00
- ふれあいのど自慢　15:00～17:30

11月4日(月)
- 展示発表　9:00～15:00
- 囲碁大会　9:00～16:00
- 青空市　10:00～14:00
- 舞台発表　10:30～15:00

ふれあいのど自慢参加者募集

申込方法　公民館にある「申込用紙」に必要事項をご記入の上、期日までに提出してください。

申込先　上山田公民館（上山田文化会館内）

申込締切　９月15日（日）

※詳細は上山田公民館 ☎ 026-276-5842 へお問い合わせください。

※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

もっと知りたいふるさと 99

「更級里」と刻まれた諏訪社

「さらしな」の地名に古来どれだけたくさんの人が心引かれてきたか調べ、約25年になります。江戸幕末生まれの佐良志奈神社（千曲市若宮）の宮司豊城直友さん（1815～1879）もそのことに関心を持ち、神社を発展させました。今は新しい祠（ほこら）に再建されましたが、分社の諏訪社の台座に直友さんが刻んだ文字「更級里」に、激動の幕末と明治を生きた直友さんの心持ちを感じたことがあります。

諏訪社は御柱祭が行われるので、氏子である千曲市の若宮、芝原区の人にとってはなじみがあります。山のある若宮、芝原両区からそれぞれ1本ずつ伐り出し、みんなで引き回し、諏訪社の両脇に建てます。小さな社ですが、祠の裏面の刻字を見ると、直友さんが幕末の嘉永7（1854）年に再建したことが分かり、その台座には「更級里若宮村」と刻まれていました。

豊城直友さん肖像画

私は特に台座に刻まれた「更級里若宮村」の文字に興味を持ちました。「更級郡」ではなく「更級里」。いまでこそ行政区名ではなく「○○の里」と書くのは一般的ですが、江戸時代です。「更級里」の方が、身近で親しみがあると考えたからではないでしょうか。

直友さんの時代にも御柱祭がありました。老若男女が集まる諏訪の神様の住まいだから、この文字を刻めば「さらしなの里」のイメージがより浸透し、定着するという願いがあったように思うのです。

ではなぜ、直友さんはそのようなことをしたのか。『戸倉町誌』によると、天保7（1836）年、直友さんが21歳のとき、近隣の八幡村（現千曲市）の八幡宮が延喜式内社の「武水別神社」と名乗るようになりました。「延喜式」とは、平安時代の各地の神社名を記した公文書のことで、延喜式内社とは朝廷に認められた由緒ある神社のことをいいます。

佐良志奈神社という名前も延喜式内社の一つですが、最初からそう名乗っていたわけではないようです。豊城家の古文書で「佐良志奈神社」と記すようになるのは1700年代半ばからで、以降はそれまでの「八幡宮」の呼び名と混在し、直友さんの生まれた1815年以降はすべて佐良志奈神社です。

直友さんが自分の神社の名前を強烈に意識するきっかけが、嘉永6（1853）年開国を迫る米国のペリーの浦賀来航ではないかと思います。その翌年に直友さんは諏訪社を「再建」しているのです。当時は日本の独自性を探求する国学が盛んだったので、直友さんも自分の神社の独自性について考え「更級里」と刻んだのではないでしょうか。

そして直友さんは諏訪社再建から7年後の文久元（1861）年、佐良志奈神社の文字を刻んだ大きな社標を境内入り口に建立します（詳しくは館報32号もっと知りたいふるさと㉜「さらしなは〝地名遺産〟」を参照）。

直友さんは明治維新12年後の1879年に亡くなりました。直友さんは幕末から明治にかけ自分の仕える神社が都人らの大きな憧れであり続けた「更級」にあることを、地域内外にアピールする仕事に取り組んだのです。

残念ながら、直友さん再建の諏訪社の祠は風化が激しく、2005年、新しい祠に建て直されました。直友さんの祠は側面にブドウの実やリスの模様が彫られており、デザインや遊び心に富むもので、今も新祠の後ろに置かれています。いずれ境内の土になります。「更級里」が刻まれた台座は、現在はありません。

さらしな堂（芝原）
大谷　善邦

2004年の御柱祭
左下に豊城直友さんが再建した諏訪社が見える

2004年当時の諏訪社の台座
「更級里若宮村」と刻まれていた

編集後記

8月になると、お盆や夏休みがあり、子どもたちにとっては大いに楽しみな時期を迎えます。私が子どもの頃は、親は畑仕事が忙しく、休みともなればよく手伝わされたことを思い出します。

その頃の子どもたちはというと、6年生を中心に近所の仲間で山へクワガタを捕りに行ったり、池で魚を取ったり、グラウンドで野球をしたりして、帰りが遅くなると親に叱られたことを思い出します。

また、子ども心で、何が危ないか、何をしてはいけないかは身体で覚えていきました。

近頃の子どもたちは、休みは家の中で、テレビゲームやスマホに夢中になっていると聞きます。それも時代の流れで仕方ないと思いますが、子どもたちで野外での楽しい遊びを考え、そして行動する、それを周りの大人が見守る、それが子どもの自立心・自主性・協調性・判断力などを育み、大人になってから、社会生活を送るときに役立つのではないでしょうか。

（稲荷山　T）

発行／千曲市公民館運営協議会　編集／千曲市公民館館報編集委員会　電話026－272－0234　FAX026－272－7167　印刷／㈲ナガト印刷